

近現代史(29) 帝国主義と列強の展開③「フランスの帝国主義・ドイツの帝国主義」

【フランス】

(1)高利貸帝国主義～銀行の資本力～

■1870年代の動向

1870 普仏戦争でナポレオン 3 世がスダンで捕虜となり失脚 ⇒[1. 第二帝政崩壊]⇒第三共和政へ

1871 臨時政府が労働者たちの自治政府[2. パリ＝コミューン]を弾圧。

1875 [3. 第三共和国憲法]成立

■1880年代の動向

○帝国主義に移行 → 植民地拡大政策 アジア・アフリカに大植民地を作り上げる。

○[4. 高利貸帝国主義]…資本輸出を積極的に展開。豊かな中間層に支えられた銀行の資本力を武器に。

■1890年代の動向

○[5. ビスマルク体制]下では国際的に孤立していたが、ドイツのヴィルヘルム 2 世が世界政策を展開すると孤立が解消される。⇒ロシアと[6. 露仏同盟]・イギリスと[7. 英仏協商]を結ぶ

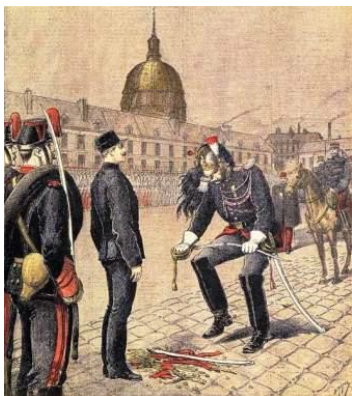
(2)帝国主義フランスの内政

①共和政攻撃の動き

■1887～89 [8. ブーランジェ事件]

・元陸相ブーランジェが右翼・保守勢力に支持されて政権奪取をねらった事件

■1894～99 [9. ドレフュス事件]



ユダヤ系のドレフュスがドイツのスパイ容疑で終身刑を宣告されたがのちに誤審と判明した事件。反ユダヤ的傾向をもつ軍部が無視したので、作家の[10. ゾラ]らは世論に再審を訴えた。1906年ドレフュスは最終的に無罪となり、軍部は信用を失った。ドレフュスが再審を勝ち取ったことで軍の民主化や政教分離が進んだ。

②労働運動の展開

■[11. サンディカリズム]の出現

・労働運動において政党の指導ではなく、労働組合の[12. ゼネスト]によっていっきよに社会革命の実現を目指そうとする動き。

■[13. フランス社会党]が成立し、サンディカリズムの動きをおさえる。

1905年、マルクス主義から改良主義まで含む社会主義諸派が結集。議会による社会主義の実現を目指すことになり、議会政治を支える一翼を担った。

③共和国の安定

■1905年 [14. 正教分離法] ⇒ 共和国は安定化

☆カトリック教会は保守勢力の一部を形成してきたが、同法により宗教に対する国家の援助は一切禁止された。宗教はあくまでも私的事柄となり、聖職者の活動は禁止されたため、共和国の政治的安定が確実となった。

【ドイツ】

(1)世界政策

■ [15. ヴィルヘルム 2 世] の即位

- ・若い皇帝は自ら政治を指導することを望む。
 - ▶ ロシアとの [16. 再保障条約] を更新せず ⇒ フランス孤立化政策が崩壊
 - ▶ [17. 社会主義者鎮圧法] を延長せず ⇒ [18. ドイツ社会民主党] (SPD) の伸長
 - ▶ 1890 年、 [19. ビスマルク] を解任。

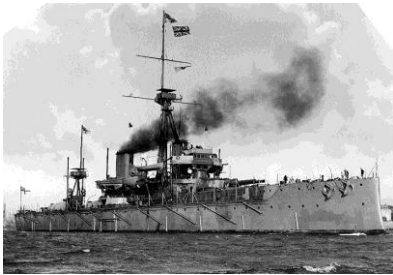
■ 1890 年代から帝国主義に入る。

- ・ヴィルヘルム 2 世の帝国主義政策
 - ▶ 資本主義が急速に伸長 ⇒ 「20. 世界政策 」 の名のもとに強引な帝国主義政策 ⇒ 海軍の大拡張

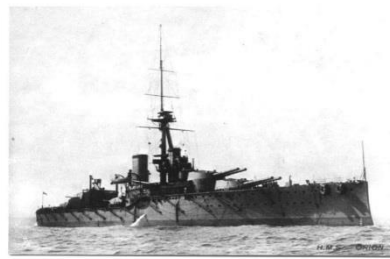
[21. 建艦競争]

世界へ進出するためにはイギリスに抗する海軍が必要だと考えられ、ティルピッツ提督のもとで海軍拡張計画が実施された。イギリスも巨砲主義の大型戦艦を建造して建艦競争に乗り出し、国際関係は英独の対抗軸を中心に展開されるようになった。

英 弩級戦艦ドレッドノート(1906 年就役)



英 超弩級戦艦オライオン(1912 年就役)



- ・市民層の意識… [22. パン=ゲルマン主義] 運動が広がって世界政策を支援。

パン=ゲルマン主義はオーストリアおよび東欧まで含めて全ドイツ人の民族的結集をはかり、ドイツ帝国の世界覇権を目指すイデオロギー。この思想は支配者層から小市民層まで幅広い社会層を結集した「全ドイツ連盟」によって唱えられた。ナショナリズムが鼓吹され、ドイツ社会に深くミリタリズムが浸透していった。

(2)ドイツ社会民主党 SPD

■ [23. 1890] 年 社会主義者鎮圧法廃止 ⇒ 社会民主党の急速な勢力伸長

↓

■ 1891 年 社会民主党、 [24. エルフルト綱領]

マルクス主義にもとづいて資本主義を革命によって倒して社会主義を実現する。

[25. 修正主義] と批判

[26. ベルンシュタイン]

[27. フェビアン協会] の理念を受け、議会主義的な改革路線を唱える。

■ 1912 年 社会民主党 [28. 議会第一党] となる。